オクソン倶楽部

1993年　初春号

常磐津あれこれ

常磐津の発生は約二百五十年程になりますがそれまでの推移は三百年程以前に京都に都太夫一中という浄瑠璃語りがおりまして一中節を広めました。この人の弟子の宮古路豊後掾という名手が一七三〇年に江戸に下り豊後節を語り大変人気を博しました。その人の髪型から長羽織まで流行するありさまでそんな人気を妬んだ者達の策謀とも云われていますが、豊後節の影響で心中が増えたとか煽情的だとか非難が多く奉行所から禁止されやむなく連中は京都へ戻りました。その中のひとり宮古路文字太夫は再び江戸へ下り常磐津文字太夫と名乗り一つの流派を建てたのが初まりです。こうして常磐津節は江戸に根付き歌舞伎で荒事から道中に至るまで伴奏音楽として用いられましたので大いに発展し町家の子女は挙って常磐津を習った程でした。次に語り手としては明治の名人林中の名が現代に至るまで喧伝されています。この人は一時六代目常磐津小文字太夫として家元を継いでいましたが養家と不仲になり父の故郷盛岡で隠遁生活をしていました。しかし芸の修業は怠たらず九代目市川団十郎に迎えられ東京の歌舞伎に返り咲き持ち前の美声と語りのリズムの微妙さに見物客は魅了されたそうです。この林中の妻女が私の祖父の叔母なので私共とは縁戚にあたります。その頃日本でもようやくレコードが出来るようになりアメリカから技師を招きラッパ型（ビクターのマークの犬が聴いている）のマイク兼スピーカーにくっついて太夫は語り、祖父二代目文字兵衛もまた林中にぴったりついて三味線を弾き録音したそうです。このレコードは雑音の多いものですが名人をしのぶ貴重な資料として私も大切に保存しています。常磐津節は義太夫、清元と同様浄瑠璃（物語性のあるもの）です。流儀を目で見分ける法は三味線の糸巻の白いのが長唄。黒の中棹が清元と常磐津。義太夫は太棹です。聞き分け方は伸び縮みが多くフェルマータが多いのが清元。語りの部分が多い上江戸で育った音楽なので歯切れの良いのが常磐津です。外国人に聞き分け方を問われたある財界人が「長唄はイギリス、清元はフランス、常磐津はドイツ」と答えられた。まさに云い得て妙です。強いて云えば私はドイツよりオーストリアの方が感じかなとも思います。

三味線には猫の皮がいいと云うのはバイオリンの板の構造と同じ原理で、中央の部分が厚く周囲が薄くなっているので硬い部分で絃の振動を吸収し、軟い部分で増幅し共鳴させる、それで艶のあるいい音が出ます。先般無形文化財認定式後、赤坂御所に上りました折、天皇、皇后両陛下、皇太子殿下、紀宮内親王殿下に三味線の構造、材質についてご説明申し上げましたが皆様非常に熱心にお聴き下さり嬉しうございました。私は昭和二十三年頃より十年程、肺結核、腰椎カリエス、肋骨カリエス等患い続けましたが幸にも完治し三十才を越してから再び古典の演奏活動を始め、それと共に創作も手がけ三百余りの作品を発表しました。常磐津というジャンルを超え多くの流儀の方達に手伝っていただき乍ら現代人によく解る「語り物音楽」を作曲、日本の音をオーケストレーションして日本の音楽を高めて行くのが私の使命と思っております。西鶴三百年祭に因みオクソンコンサートで坪内逍遙先生作詞、祖父二代目文字兵衛作曲の常磐津「お夏狂乱」を六夜演奏されると聞きまことに喜ばしいこと、思っております。

四代目 常磐津文字兵衛

昭和二年一月十五日
三代目文字兵衛次男として出生
昭和七年六月六日
常磐津の稽古始める
昭和十六年
英八郎を名乗る
昭和三十四年十一月
芸術祭奨励賞受賞、後数度受賞
昭和三十五年
四代目文字兵衛襲名
昭和五十一年
モービル音楽賞受賞
平成元年五月
紫綬褒章受賞
平成四年五月十五日
重要無形文化財保持者に認定される
（人間国宝に認定）

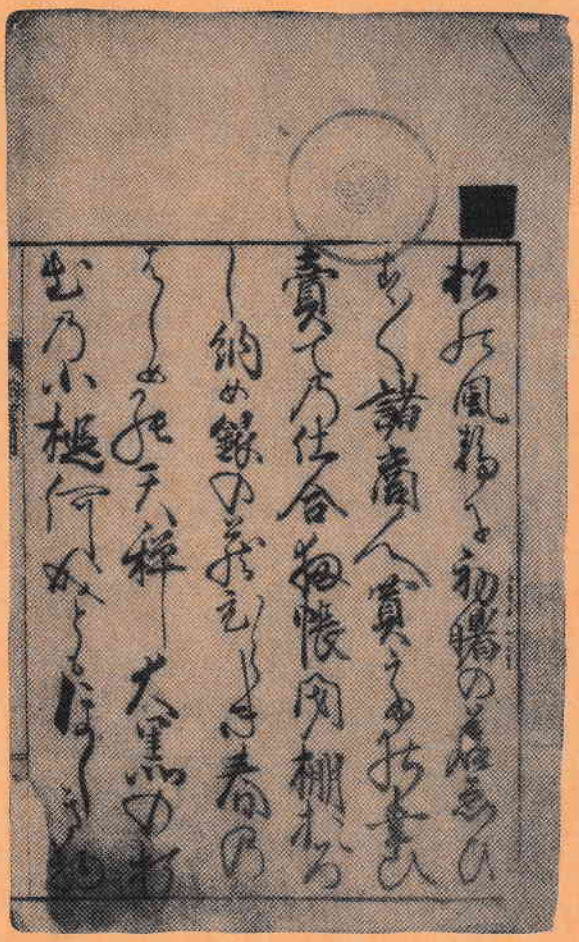
謹賀新年

お正月は、1月5日から平常通り営業いたします

店主

百年祭

ひたって……



『世間胸算用』序文・釈文

松の風静に初曙の若ゑび
す〳〵諸商人買ての幸ひ
賣ての仕合(さて)帳閉
棚おろし納め銀の蔵びら
き春のはじめの天秤大黒
の打出の小槌何成(なり)

井原　西鶴

（一六四二～一六九三）

江戸前期の俳諧師、浮世草子作者。大阪に生まれた町人で、本名は平山藤五。西山宗因に師事し、談林俳諧の代表作家となり矢数俳諧で有名。奔放な俳風は阿蘭陀流と呼ばれた。宗因没後、浮世草子を述作。「好色一代男」「日本永代蔵」「世間胸算用」「武家義理物語」等、多くの名作を残し元禄六年八月十日大阪錫屋町で没した。その作品は文学的評価が高く、一九六〇年ユネスコでは、世界的偉人の一人として西鶴を選んでいる。

『伊勢海老は春の枕』

「世間胸算用」（一六九二年）元禄五年正月刊行より

正月の座敷には蓬莱を飾る。三方に白紙・裏白譲葉・昆布などを敷き、米・搗栗・榧・ほんだわら・串柿・橙・伊勢海老などを積み、年賀の客にもすすめる。昔は年によって入荷が極端に少ない「年切」という事態が起こった。橙は九年母で代用するが、紅色に照り映え、めでたい正月気分をみなぎらせる伊勢海老だけは、ゆでるとくるりと

おうという年徳神は来てくださらなくてよい。」と家の主人は機嫌が悪い。内儀と息子は世間体を思うて四匁八分で求めようとする。およそ六千円。が、主人はけちで買わず張りぼての海老をつくる。「正月の祝いがすんだら、子供の玩具にもなるぞ。知恵はこんなふうに使うもの。安くあげて後の役に立つ。」と、主人のお説教。そこへ九十二歳になる主人の母親がやって来て「いつも新年になってから節分のある時

オクソンの音楽会のお知らせ

井原西鶴の代表作「好色五人女」の中から恋人清十郎を慕って狂乱になった「お夏の物語」をご披露いたします。

明治・大正を通じて、すこぶる独創味に富んだ名作をお楽しみ下さい。

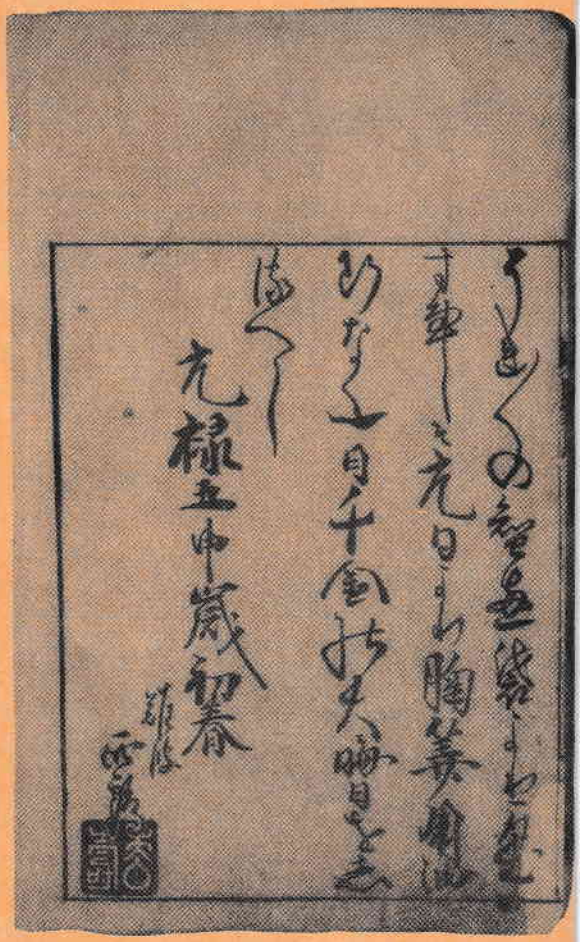
曲目　お夏狂乱
作詞　坪内逍遙
作曲　二世　常磐津文字兵衛
三味線　常磐津小欣司
・関西常磐津協会理事
・重要無形文化財常磐津節（総合指定）
浄瑠璃　常磐津一佐太夫
・関西常磐津協会理事

常磐津小欣司による解説でお送り致します。

期間　２月22日（月）～２月27日（土）
料金　￥17,000（税、サ、飲物は別）
お食事時間　PM6:00～
演奏時間　PM8:00～PM9:00
特別コースの為、ご予約をお早めに…。
お待ち致しております。

西鶴　三

元禄文学に



知恵袋より取出す事ぞ元日より胸算用油断なく一日千金の大晦日をしるべし

元禄五申歳（さるのとし）初春　難波　西鶴（松寿）

代えては、格好がつかない。手広く商売し、人の出入りも多い家では世間体も張らねばならぬ。世間に不景気の声が満ちているのに、伊勢海老なしの蓬莱は思いもよらぬと金をいとわずに買うのが常である。

―ある大阪の商家で―

「自分一代に高いものを買ったことがない。薪・綿・米も安い時期に現金で買う。今に気がかりは父親の棺桶を高く買ったことだけだ。伊勢海老がないと正月が来ぬわけでもあるまい。ないもの食おけ。伊勢は神国だから節分に日本中の神々を祭って何百万という海老を供え、そのお下りを京や大阪へ、よこすのだ。高値になる前に、一つ四文で二つ買うておいた。」という。七十六円。みな感心したが、二つはぜいたくと疑う。「いや、一つは一匁相応の歳暮の返しにする。贈答には、もらった物を値踏みして、同程度に見えて、少しずつ得をするようにして返しをするものだ。」というてきかす。一匁は千二百五十円。

師宣筆「見返り美人図」

東京国立博物館蔵

西鶴は文学史上での浮世草子作家を確立し、その頃、美術史上では菱川師宣が浮世絵の創始者となった。

Q-zaemon Ave. 35

花を支える枝、
枝を支える幹、幹を支える根、
根はみえねえんだな。

比叡山　中山玄晋

上町台地の名水
一円、五円の協力で
カンボジアに井戸を
贈れました。
一金　壱百萬円也
カンゲキしてます。

㈱花熊　山本良一

おのこわれ
意気の子　名の子　つるぎの子
詩の子　恋の子
ああもだえの子

「鉄幹より」

笹原ブロック工業㈱　笹原宣彦

いきいき　わくわく　きらきら

三和銀行　西谷和浩

秋の夜の　良き音楽と　旨し酒

島田佐知子

ハンガリーの夕べの晩さん会とても楽しい夜を過ごすことができました。おいしいお料理を作ってくれたコックさんにお礼を申し上げます。

ハンガリー共和国大使　Dr.ラーツ

Güte Küche, Gütes Weins,
Vielen Dank !

大阪ユネスコ協会会長　山口

女は度胸　ステーキはオクソン

NHK　植村　脩

才覚は無尽蔵あり

商人と一口にいうが、江戸の元禄時代にはすでにいくつかの業種に分類されている。問屋、仲買、小売の三分類の中で、問屋でも幕藩の御用を勤めるのが御用商人と呼ばれ、投機的取引の商人もあり、物流に従事する商人（車馬）もあった。そして、いずれの商人も成功をおさめるためには〝才覚〟がなくてはいけないとされた。才覚とはなにか。知恵である。現代における企画力である。他人の考えない商いの工夫を見つけた者が勝者となる。博奕に勝って儲けたり、詐欺とか入智による栄耀は一切認められないのが原則であり、商人の心得としては、我が尊敬する元禄期の流行作家、井原西鶴先生の作品「日本永代蔵」の一節を借りれば、―商売に油断なく、弁舌手だれ知恵才覚、算用たけて、わる銀をつかまず。又、油断ハ煙ノ如シともいっている。ほんの隙間から忍び込んでくるものだという。そして、一旦地道な商いの道に踏み込んだなら、たとえ日銭が薄く

ても堅実な道を歩むように心がけよ、と繰り返して商人たちにいい聞かせている。他からの旨い話には目もくれるなと忠告を重ねている。たとえば、米、大豆、小豆等の相場商い、見込み商いには絶対に乗るなという。たしかに、これらの商いは才覚の振るいどころかもしれないが十分の九は危険が伴い、永続的な店の繁栄は望み難いという。

商人精神には二種があり、自らに課す受身三要素と外に向って発揮する能動（行動・攻撃）三要素があるとしている。受身三要素は「忍耐」「勤勉」「節約」。能動三要素は「算用」「才覚」「始末」。この六つの要素が自らにそなわった場合に、ようやく商人道の入口に立ったといわれた。どれひとつとして欠けてはいけないのだ。「節約」と「始末」は似ているようで違うのである。節約はセーブであり、始末はサーカムスタンスである。現代の経営者はこれを混同して用いているが、江戸時代ではすでにきっちりと区分していたことになる。節約は無駄な物や事柄に金を投じないことであり、始末とは、はじめと終り（開始と結末）をきっちり合わすことで、俗にいう帳尻を合わすことなのだ。

―革足袋に雪踏をはきて、終に大道をはしりありきし事なし。走って転んで怪我でもしたなら大変だということではなくて、忙しく走り歩いたなら、雪踏の底が減るというわけである。ゆっくりと足許を見て歩き、往来の野草を見分けて採って帰り、自家製の薬にするほどの心がけが必要だという。それでも転んでしまった時は、―躓いた所で燧石を拾って袂に入れ……。というほどの細かな気持を決して忘れてはいけないという。商人は楽ではないのだ。

作家　藤本　義一

オクソン倶楽部へのおたより

音楽鑑賞などとは縁遠い私でありますが、西垣さんのギター演奏には、魅了されるものがあり感動いたしました。コロンブスの話題をギター演奏にのせての発想にも驚かされましたし、またギターそのものが二〇〇年も経っている名器であるということなども、軽妙な語り口の中で知らされ、プロの厳しさや、ひたむきさを感じました。

「恐竜は人類の郷愁であり憧憬である。」という発想のもとに一〇年ちかく恐竜モデルづくりをして参りまして、只今恐竜パークづくりの夢に参画し、それに熱中しています。

西垣さんのギター演奏に触発され、オクソンさんの料理づくりへの冒険心に共鳴させられたままペンを走らせました。西垣さんのギター演奏のことを意識の中に囲っておきまして、いつか邂逅できればと思っています。

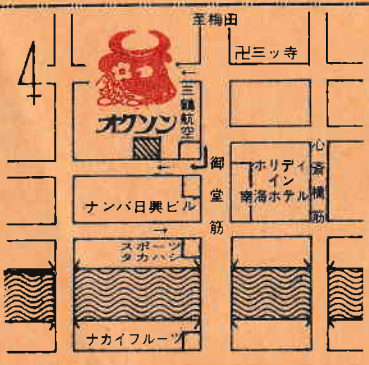
オクソンのオリジナル料理への挑戦にご期待申し上げ乍ら、先日のお礼まで。

海洋堂　宮脇

編集後記

オクソン倶楽部を季刊誌として発刊して五年目に入りました。当初は不慣れさから編集締め切りが近づくと心を痛める日々でしたが、近頃は季刊誌作りに喜びを感じるゆとりを少し持てる様になりました。これは、ひとえに快く寄稿して下さるオクソンのお客様方のおかげであると深く感謝致しております。今回寄稿して頂いた藤本義一先生のサイン「人生は愛を刻む旅なり」という言葉を目標に、今年も愛を持って仕事に、のぞみたいと思います。

店主　山口



Steak & Wine
オクソン
☎ (06)211－9898
営業時間　ランチ　11：30～14：00
　　ディナー　17：00～23：00
定休日　日曜、祭日
発行所　「大阪市中央区西心斎橋2丁目3－9」
編集責任者　尾形　貴志